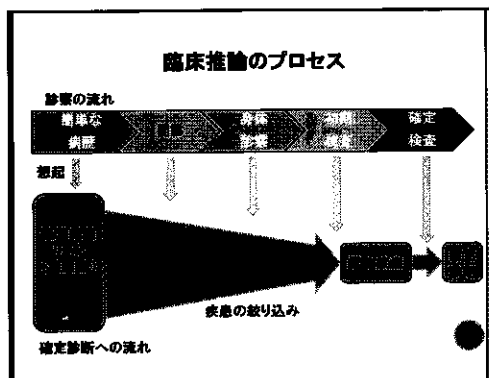


臨床推論

愛媛大学大学院医学系研究科
地域医療学講座
(西予市地域サテライトセンター)
二宮大輔



症例提示

- 症例: 85歳 女性
- 主訴: 浮腫
(かかりつけ医からの紹介受診)
- 既往歴: 50代頃から高血圧症と便秘症、60代から高尿酸血症について近医にて内服加療中、コントロールは良好。
- 現在の内服薬: ニフェジピンCR20mg2錠朝夕、アロプリノール100mg1錠朝、酸化マグネシウム2錠朝夕、フロセミド20mg0.5錠朝(隔日)。

- 現病歴:
10年程前から夕方になると両下腿の浮腫が出るためフロセミド錠10mgを定期内服していた。X年の7月中旬(来院2か月前)に血液検査にて低カリウム血症(K 2.8mEq/l)を認めためフロセミド錠は休薬となった。8月末(来院2週間前)から日中にも下腿浮腫が目立つようになり、血液検査にて低アルブミン血症(Alb 3.6g/dl)を認め、血清カリウム値の改善(K 3.6mEq/l)を確認したうえでフロセミド10mg隔日で再開した。しかし、その後も下腿浮腫が持続しており、9月上旬(来院1週間前)からは両手背の浮腫もみられるようになった。浮腫が増加して起立や歩行が困難になったとして精査希望で9月中旬に当院を紹介受診となった。

鑑別診断の挙げ方

- ① 網羅的に挙げる → カンファレンス向き?
- ② 緊急性の高い順に挙げる → 救急外来向き
- ③ 頻度の高い順に挙げる → 一般外来向き